

会 議 録

【事業番号4 金沢ボランティア大学校運営費補助】

- 1 会議名 平成28年度第3回市民行政評価委員会（事務事業第2回）
- 2 日 時 平成28年10月26日（水）午後1時30分～2時5分
- 3 場 所 議会第3委員会室
- 4 出席者

（1）市民行政評価委員会委員

岡田委員長、村田委員、林委員、山崎委員、寺田委員、
大家委員、喜成委員、藤田委員

（2）事業担当課（市民協働推進課）

東課長、橋爪係長

（3）事 務 局（行政経営課）

村角課長、松本課長補佐、島崎係長、神田主査、佐藤主査

5 審議内容

評 価 委 員 ： 修了後にボランティア活動をしていない方も少なからずいるが、
どのような事情があるのか。（事前質問）

事業担当課 ： 講座スタッフが受講生から聞き取りをした結果だが、新たな知識
の習得や生きがい探し、余暇の充実といった目的で受講している
方は、ボランティア活動に対する意識が必ずしも高くないよう
である。また、受講内容が思っていたものと違っていたという声の
ほか、自らのスタンスとして継続的活動ではなく随時活動する
という方もいるとのことである。

評 価 委 員 ： 各コース受講者の年齢層分布は。（事前質問）

事業担当課 ： 追加資料提出

評 価 委 員 ： ボランティア受入先として想定している団体や活動（観光コース
ならまいどさん など）はあるか。また、受入先団体の声をヒア
リングしていれば教えてほしい。（事前質問）

事業担当課 ： 観光ガイドの「まいどさん」は、観光コースを受講していること
がボランティアの必須要件となっている。それもあり、観光コー
スは非常に人気が高く、毎年抽選で入学者を決めている状況であ

事業番号4 金沢ボランティア大学校運営費補助

る。また、「うめばちの会」の活動には、歴史遺産コースの修了生が多数参加している。ほか、傾聴・福祉コースの修了生が「傾聴ボランティアの会」、「ひだまり」及び「きずな」で多く活動していると聞いている。受入先団体からの声として、実際のボランティア活動に従事する前に、改めて団体独自の研修を行っていたが、その間も熱意を継続し、団体内の人間関係を築いていく方が少ないという話がある。

評価委員：入学した方が途中で辞めてしまうことになった理由は何か（面接やアンケート調査結果があれば）。また、国際交流コースは毎年特に途中辞退が多いように思うが、原因はどこにあると考えているか。（事前質問）

事業担当課：面接や電話等で聞き取りをした結果では、仕事の都合や健康上の問題、家庭の事情、送迎を確保できなくなった、などの理由があった。国際コースに関しては、現役世代の受講者が多いため仕事上の都合による方が多い。また、開講時間帯が夜間なので家事の都合という方もいる。

評価委員：各コースの定員数と必要ボランティア数の充足との関係は。

事業担当課：ボラ大事務局を通じた間接的な声を含め、ボランティアを紹介してほしいといった要望は届いていない。

評価委員：応募状況ではなく将来の必要ボランティア数を定めた上で、定員数を決めるのが基本ではないかと考える。

事業担当課：コースそのものについては、時代に合っているか、妥当なコースか、といった観点で概ね3年毎に見直しを行っているが、定員は特に変えていない。コース間で較差が生じていることから、定員の見直しについてボラ大事務局に提案しており、来年度に向けて今後もボラ大事務局と協議していきたい。

評価委員：受講は勿論だが、それを今後に活かしていただきたいというのが大きな目的であるとするれば、募集時又は開講時に、具体的なボランティア活動の情報を発信し、実際の活動に繋がる意識づけを行うことが効果的ではないか。

事業番号4 金沢ボランティア大学校運営費補助

- 事業担当課 : 活動団体の紹介については、全 24 回の講義のどこかで必ず行っている。因みに、今年度から「マナーをよくするかなざわ市民会議」の構成団体にボラ大が加わっており、キャンペーン活動の際には、必ずボラ大の受講生や修了生からご参加いただいている。小さくとも、まずはボランティア活動に参加していただきたいという思いから、受講生の活躍の場を増やす取り組みを始めている。
- 評価委員 : 各コースのテーマに沿った修了後の活動というものがあるはずであり、その情報を初めのうちに発信すべき。
- 評価委員 : 例えば、募集案内を工夫してはどうか。コース毎にどのようなボランティアで活躍してもらうのか記載してあったほうが、受講後の姿を具体的に思い描ける。また、先にあった応募者数が少ないから定員を絞るという考えは、個人的に反対である。必要で設けているコースならば、人数を絞るのではなく応募者を増やす努力をすべきであり、必要ないコースならば廃止すべきと考える。
- 評価委員 : 二次評価における、この事業の問題点と見直すべき点について、補足説明をいただきたい。
- 事務局 : 二次評価については、定員割れが続いているコースがあること背景として見直しと評価した。なぜそのような状態なのかと言えば、やはり受講後の活動内容が分からないことが原因の一つではないかと考えている。大学のパンフレットを例にすると、卒業生の進路情報が記載されていることで、卒業後の将来がより具体的にイメージでき、進路を決める一助となる。そういった情報がパンフレット等から伝わってこないのも、明確にする必要があるのではないかと、という考えが一つである。もう一つは、実際の活躍事例を合わせてご紹介することで、入校の動機がより鮮明になるのではないかと考えている。必ずしもコースの必要性を否定しているのではなく、必要だとしても現状のまま継続するのは如何なものか、やはり内容を見直して重点化するなり改善するなり工夫が必要ではないか、という主旨である。

事業番号4 金沢ボランティア大学校運営費補助

- 評価委員 : ボラ大の講座と災害時のボランティアは何か関係があるのか。
- 事業担当課 : 災害が発生した場合、現地で災害ボランティアセンターが立ち上がり、被災地側の要望に沿って活動に従事していただく形態が一般的である。そのためコースとして災害に特化したものを設けてはいないが、ボラ大で学ぶことにより、ボランティアとしての心構えが育成されるので、災害時にはボランティアの担い手として積極的に活動に従事していただきたいと期待している。
- 評価委員 : 受講者の年齢要件を満 18 歳以上に制限する理由は何か。極端に言えば、興味がある方はどなたでも参加してよいのでは。
- 事業担当課 : 18 歳未満となると、日中の講座の場合は学校との兼ね合いがあり、夜間の講座の場合は移動も含めて時間的な問題があることから、当初より制限を設けているが、ご指摘にも一理あるので、ボラ大事務局に一度話をしてみたい。
- 評価委員 : 「ボランティア学」の出前講座はどのようなことを行っているのか。
- 事業担当課 : 資料 P58 に昨年度の実績が掲載されている。これ以上の詳細な内容については分かりかねる。
- 評価委員 : 市民協働という大きなテーマの中に、ボランティア活動に対する啓発的な部分と、実際の活動に繋げる部分があるとすれば、この事業は前者寄りと認識している。ボランティアの人材を実際の現場に繋ぐ場合、需要と供給のマッチングが必要だが、現状はその辺が不十分と感じる。いずれはコーディネート機能を備える市民活動サポートセンターが開設されるので、双方の目的と役割を住み分けつつ、事業間の連携によって上手く進める方法を検討するのが良策かもしれない。2点目は、長期講座についてだが、障害福祉コースは数こそ少ないが受講者は貴重な人材と言え、応募者数を以てコースの存廃を議論するのは、必ずしも妥当ではないと考える。また、災害ボランティアの知識など、全員に知っていただきたいがコース化となると難しい分野もあると思う。そこで、

事業番号4 金沢ボランティア大学校運営費補助

全 24 回の講義のうち、最初の数回は分野を問わず、ボランティアに関する基礎的な知識を学んでいただき、その上で専門分野を選択していただければどうか。

事業担当課 : 市民活動サポートセンターについては、現在、そのあり方を検討しているところなので、いただいたご意見も参考にしていきたい。また、長期講座については、現在も各コースに共通する講義を設けているが、ご提案いただいた方法についてボラ大事務局と話をしてみたい。